

世界の中のコリアン

— その精神文化がもたらすもの

いとうあびと◎1943年東京都出身。東京大学教養学部教養学科、同大学院社会学研究科を修了。泉靖一や李杜鉉ソウル大学名誉教授に師事し文化人類学を専攻。71年から韓国を中心とした東アジア諸地域のフィールドワークに従事。信仰と儀礼、儒教と教育、親族組織、農村振興とセマウル運動など多数の論文を発表。東京大学教授、琉球大学大学院教授、ソウル大学校招聘教授などを歴任後、現在東京大学名誉教授、早稲田大学アジア研究機構教授。2002年韓国政府より大韓民国文化勲章を受章。主著に『暮らしがわかるアジア読本 韓国』(河出書房新社)、『韓国夢幻』(新宿書房)など。

伊藤亜人

東京大学名誉教授
文化人類学者

豊饒な民俗文化と、儒教に基づく高い精神性をあわせ持つコリアン。国際舞台でも実にさまざまな顔を見せる。文化人類学者として韓国に深い造詣のある伊藤亜人氏と、気鋭のノンフィクションライター野村進氏に、その歴史的経緯と課題、現況について語っていただいた。

撮影〓岩橋昇／構成・文〓大田由紀江

野村 先生は人類学・民俗学の立場から、40年にわたって韓国の研究を続けられ、その文化と歴史を素人にもわかりやすく紹介されてきました。済州道チェジュドにフィールドワーカーとして入られたのが1971年。解放後(戦後)、日本人としては初めてと聞かれますが、伊藤 民俗学に惹かれたのは高校卒業後の浪人時代、柳田國男の『遠野物語』の虜になって以来です。触

のむらすすむ◎1956年東京都出身。上智大学外国語学部英語学科中退。1978～80年フィリピン・マニラに留学。帰国後『フィリピン新人民軍従軍記』（晩聲社）を発表し、ノンフィクションライターに。以来、現場密着主義を貫き、アジア・太平洋関連のレポート、先端医学やバーチャル・リアリティなどの科学報告、各界の人物論などを手掛ける。1996年、在日コリアンを世界的な視点から描いた『コリアン世界の旅』（講談社）で大宅壮一ノンフィクション賞、講談社ノンフィクション賞を受賞。99年『アジア新しい物語』（文藝春秋）でアジア太平洋賞受賞。現在、拓殖大学国際開発学部教授。

野村進

韓哲文化財団評議員
ノンフィクション作家

発されて2年間、東北地方や瀬戸内海の漁村を歩きました。そして東大入学後、日本を知るには、中国や朝鮮半島についても研究が必要だと思っていたところ、最初の授業で泉靖一先生と出会ったのです。野村 戦後、日本の文化人類学をリードしてこられた泰斗（たいと）ですね。初期の著作『济州島』は私も読みました。こんなスケールの大きな学者がいたのか、と感動しました。

伊藤 泉先生は朝鮮で育ち、京城帝国大学の学生時代に、济州島の漢拏山（ハンナ）で、友人を遭難で亡くしています。そこで現地の巫俗信仰、神房（しんぶ）と出会い、シャーマニズムの研究をスタートさせました。近年、日帝時代の学者はわざわざ迷信を取り上げ、朝鮮の後進性、無知蒙昧性（もうまいせい）を印象付けた、と非難する声がありますが、土着の呪術や神話は、民族の生死観や宗教観を読み解く上で重要なフィールドです。撮影した写真やスライドはぜひ見せていただき、大事にコピーをとってあります。私は大学院博士課程を中退し、研究室の助手についたのですが、その3カ月後、1970年に55歳で急逝されて…。ソウルに韓国研究のセンターを設立しようと計画していた矢先です。衣鉢（いはつ）を継ぐようなことになりました。



フィールドワークで出会った、 豊饒な民俗文化

野村 72年には済州道に続いて、珍島^{チシド}のフィールドワークにいらっしやった。

伊藤 中央の政治や植民地行政の影響をあまり受けていない、南の辺境。伝統的な民俗文化が豊かに残り、観光や開発が進んでいない農村ということで候補に上がりました。先祖祭祀がきちんと継承され、書画、芸能、音楽など芸術的な土壌も魅力的でしたね。

野村 当時は朴正熙^{パクチンヒ}大統領の軍事独裁政権下。学生運動の最中であり、金大中^{キムデジョン}事件や金芝河^{キムジハ}の死刑判決

と厳しい時代の中、大変なプレッシャーだったのではありませんか？ 朝鮮に対する偏見も強烈に残っていたし、その分、現地では日本人への風当たりも強かったでしょうし。

伊藤 いや、ほとんど感じなかったんです。文化人類学のアプローチは、国家や政治経済とは別です。リベラルな家庭で育って、差別感情から自由だったことも大きいでしょう。父は画家でしてね、中国、モンゴル、フィリピン、ニューギニアとアジア各地を回っており、その絵画や、現地で貰ってきた刀やらお面やら被り物やらに囲まれて暮らしていました。私の名前も「亜細亜の人」ですから。

話せばわかる、というのが基本にあるんです。現地の村に下宿して、同じものを食べ、祭りに参加して酒を飲んで。上流の両班^{ヤンバン}の家庭では、夫婦でも男女の住むスペースが厳格に分かれているのですが、私は女性の部屋にも入れてもらって話を聞いたほんです。野村さんは、いつごろから韓国取材を？

野村 パルパル（1988年ソウルオリンピック）の直後、まだ熱気が残っているころです。90年代に入って、日本人でありながら韓国の有名デパート、新世界百貨店の店長になった大久保孝氏のルポ。そ

の後、在日韓国・朝鮮人のノンフィクションを手掛けました。

伊藤 『コリアン世界の旅』ですね。在日の生活や民族感情を多方面から掘り下げ、さらにベトナムとの複雑な関係や、サンフランシスコの在米コリアンも取り上げて話題になった。あの本が一つの契機となり、在日であることをカミングアウトする人が増えたとも聞きます。

韓流ブームと

日本の若い世代の意識

野村 そういう時代が来ていたんですね。芸能界では和田アキ子さん。サッカーのJリーグでは民族名



で活躍した4世の李忠成^{リただなり}選手。彼はその後帰化して、先ごろのアジアカップでは決勝ゴールをあげ、一躍国民的ヒーローになりました。でも、コリアンのイメージがメジャーになったのは、なんといつても韓流ブームです。この前テレビの番組で、シネカノン^{シネカノン}を設立し映画『シユリ』や『月はどっちに出ている』をヒットさせた李鳳宇^{リボンウ}氏と、大久保のコリアンタウンを歩いたんですが、韓流スターの店がずらりと並び、プロマイドが飛ぶように売れている。10年前は韓国人を“かっこいい”と無邪気に称賛できる雰囲気はなかった。いまは大学で教えている学生のケータイを見ると、待ち受け画面が東方神起や少女時代です。想像を絶する早さで、文化の力でガラリと変わってしまう。在日への視点も、悪い方向へは導いていないでしょう。

伊藤 映像の影響力は大きい。きっかけはそれでもいいと思いますよ。興味をもって、韓国を訪れる人が増えれば、韓国人の生活の背後を、生活者として自然に共感することになる。ともかく現地に体を運ぶこと。本格的な交流はそこから始まります。

野村 そうですね。軽い気持ちで語学留学に行った学生が、卒論のテーマに韓国の徴兵制度を選んだり

しますからね。ただ一方で、あまりのイメージのギャップに、ヨン様と北の將軍様は、違う民族だと思ひ込んでゐる学生もいるんですが。

韓国人の中にある

内なる差別意識

伊藤 在日をテーマに据えると、当然差別の問題が出てきますが、同時に韓国人同士の差別意識も見えてきませんでしたか？

野村 はい。在日には済州道の出身者が非常に多いのですが、半島から差別されてきた地域のため、出稼ぎ先が日本になったという背景があるんですね。「済州人と結婚するぐらいなら、日本人と結婚したほうがまし」という言葉を聞いて驚きました。伊藤 韓国の地域差別はかなり峻烈でした。慶尚道ケサンダの人は全羅道チルラドの人を差別し、済州島はそのさらに下。李王朝時代には流刑地だった歴史もあります。野村 観光ガイドには韓国のハワイと謳うたわれ、確かに三無、乞食と泥棒と、泥棒を防ぐ門がないという、純朴で温和な風土なのですが、逆に三多、火山島で石が多く、台風で風が多く、出稼ぎで取り残された

女が多い地域ともいわれる。土地が痩せた貧しい島です。

日本への渡航には、歴史的に4回の波があるんですね。初めは日韓併合後の1920年代に起きたコレラ禍。戦時中は徴用や強制連行。解放後は、一挙に増えた引揚者が、食糧難から多数日本に舞い戻ってくる。そして1948年の「済州島四・三事件」。南北対立を背景に、反共を推し進めるアメリカと李承晩イ・スンマン政権が、済州島で武装蜂起した南朝鮮労働党の弾圧命令を出したことから、軍による村人への無差別殺人にエスカレートした事件ですね。真相は十分解明されていませんが、3万人以上が虐殺されたといわれます。続く朝鮮戦争の混乱もそれに拍車をかけて、彼らの逃げ場は日本しかなかったのです。

伊藤 韓国は世界的にも類を見ないほど、均質な民族で構成されています。大陸の一隅に位置しながらも、先住民や少数民族集団が見当たらない。それだけに、わずかな差異が差別を生みやすいのです。儒教思想を背景に、文人官吏、両班ヤンバンが支配層として明確にあり、中央集権体制も強固だった。その価値観はいまも脈々と生きています。周縁地域への差別のほか商人、職人、ブルーカラーなどの職業差別。女



性、障害者、混血差別。同じ韓国人でも在外で生活し、帰国した人への蔑視もある。

野村 韓国に行つて働いている在日コリアン、十数人に取材したことがあります、ある意味、日本より差別がきついと言います。同じ民族なのに部屋も貸してくれない、とか。留学生だと在日はモテないが、在米コリアンはモテるといった微妙な部分もあるようですよ。

伊藤 在日は韓国語のできないケースが多く、嫌われる要因の一つですね。日本の文化、風習が身についていることも、「日本人みたいだ」と言われやすい。

野村 あと意外だったのが、周辺アジアに対する差別意識。たとえば子供に英語を学ばせるため、フィリピンに住むコリアンは多いのですが、現地で雇うメイドさんへの対応がひどい。フィリピンが英語圏なのはアメリカの植民地だったからで、同じ痛みを持つはずなのに、想像力が働かないんですね。

伊藤 香港でもサイゴンでも、コリアンビジネスマンの評判は、残念ながらあまりよくなかった。なかでも、中国人に対する蔑視は根強いものがあります。野村 韓国は、チャイナタウンが長いこと出来なかった、アジアでは珍しい国ですよ。今は仁川インチョンに

観光資源としてありますが。

伊藤 昔はソウルにもあったんですよ。都市整備でなくなりましたが、かなり政治的な意図があったようです。

「ディアスポラ」として 世界に散らばる韓国人

野村 その一方で、世界各地に散らばる在外コリアンは大変な数ですよ。多い順に在米200万人、中国東北部の朝鮮族が190万人。在日64万人、旧ソ連45万人。総数は600万人以上でしょう。南北アメリカやオセアニア、アジア各地では、現在もどんどん増えている。とても積極的です。

伊藤 韓国では、人間関係の核になるのが父系血縁原理ですから、地域に定住するという感覚がありません。血縁や知人のツテを頼って頻繁に移動しますし、職業も変える。もともと流動性が高いんです。以前なら軍事独裁体制



からの逃避。現在はグローバルイズムの波に乗って、教育や情報、経済的チャンスを追いかけていく。エリート志向が強いため、国内の競争から離脱した人が、海外に活路を見出すというケースもあります。ほかにも兵役を嫌う人、北朝鮮の動向に不安を持つ人、さまざまな理由で故国を離れて暮らしている。まさに「ディアスポラ」ですね。

野村 その国にとけ込むわけでもなく、故郷に錦を飾ろうというのでもなく、不思議な印象を受けます。92年のロサンゼルス暴動で、店を焼き打ちされた在米コリアンを取材したのですが、復興のままならない中、自分をクッチェ・ゴア、国際孤児と評していました。アメリカへの移民が急激に増えたのは、朝鮮戦争以降ですね。彼らは教育程度が高く、資金もそれなりに持っていて、白人と、黒人・ヒスパニックの間の階層にすっぽりと収まるんです。商店を経営し、ヒスパニックを低賃金でこき使ってたがために、あの暴動はロドニー・キング事件、白人対黒人の問題が引き金だったにもかかわらず、

コリアンタウンが標的になった。アメリカの負の現実の中で、コリアンは自分の立ち位置をどう捉えているのか、考えさせられました。

伊藤 従来のユダヤ人を代表とするディアスポラ像とも大分違いますね。韓国本国にいる人間は、国家や民族を非常に強調するのですが、一度海外へ出てしまうと、意外と愛郷心に乏しい。母国に帰りたい、故郷に貢献したいとは、あまり思わないようです。現地でコリアンチャーチを中心に、言語と食

文化を共有するコミュニティを作り、自己完結している印象があります。国際的に、今後どんなスタイルを形成していくのか、非常に興味深いところです。

日韓で対照的な 仕事に対する価値観

野村 流動性という点で見ると、日本は対照的です。拙著『千年、働いてきました』で「老舗」の調査をしたのですが、200年以上続いている商店や企業が、



日本には3000軒以上ある。対して韓国はゼロ。隣国なのにこの差はすごい。ちなみに中国は9軒、インドが3軒です。先生の著作に、韓国では継続的あるいは地道に仕事を続けることを貴重とは考えない、とありますが儒教文化と関係があるのでしょうか。

伊藤 ありますね。儒教では内面の徳を重要視します。手先の技や商い〓仕事は一段低く見ますし、それを通しての人間関係もほとんど重視しない。もっと普遍的な価値、理念、人間の徳

といったものが評価され、それによって社会が統合されてきました。仕事というのはあくまで方便であって、むしろ仕事に捉われると、内面の涵養に差し支えると考えられます。

野村 日本人は、逆にコツコツ仕事を続けることで、内面が涵養されると考えている。修業という言葉を使いますからね。

伊藤 商人や職人は、コツコツと家業や実績を積み上げ、地域に根をはっていきます。ローカライズし、非常に定着性が高いですね。でも内面の徳は、場所

に縛られませんか、流動性を保障するんですよ。

野村 大阪に金剛組という1400年も続く世界最古の建設会社があります。寺社仏閣の設計施工や文化財の復元修理を手掛けていて、創始者は聖徳太子の時代に、四天王寺建立のため百済から招かれた宮大工です。系図を見せてもらおうと31代。間にたくさん養子が入っているんですね。あくまで技と伝統を継承できる人物をとりたてて、老舗を守ってきた。実践的というか、プラグマティック（実用的）。その辺も父系血縁主義の韓国とは、対照的です。

伊藤 物と精神の関係を見ても、対照的ですよ。日本人は物と精神を区別しない。むしろ物を通して精神を教えたり表現したりする。仏教でも庭や床の間、掛け軸が大きな意味を持つでしょう。韓国人には理解できない。物と精神はあくまで別物。物に囚われると、徳を失うと考える。

野村 日本では金箔きんぱくの職人さんが、金箔には心があ
る、機嫌が悪いと言うことを聞いてくれない、なんて普通に言いますよね。針供養くようはするわ、包丁供養はするわ。物にも魂があると考ええる。

伊藤 アニミズムの伝統ですね。物にも道具にも、自然にも魂が宿っている。

野村 宮崎駿のアニメや、ゲゲゲブームも根底にアニミズムがありますね。日本人の志向性がよくわかります。

伊藤 文明は、そういった物や地域から超越した、観念的な世界観、権威を生みだし、社会秩序をつくるものです。キリスト教もイスラム教もそうですね。その点で日本は文明の周縁、未開の社会といってもよいのです。逆にいうと、理屈や理論に足をすくわれることもありませんが。

日本人がいま、

韓国人に学ぶべきこと

野村 韓国人は精神性を大切にする、大変誇り高い民族ということがわかります。日本人が彼らから学ぶべきことはなんでしょう。

伊藤 やはり普遍的な価値、倫理性。人間として理想を追求する姿勢ですね。市民連帯、弱者救済、環境保護などは日本より進んでいます。NGOレベルでも、そういった運動を国際化していく方向性を持っています。

野村 エリートや国際的な指導者が育ちやすい文化

ということがありますか？

伊藤 土壌はあるでしょう。たとえば国連事務総長の潘基文^{パン・ギムン}。三星^{サムソン}の世界的な躍進も、指導者のリーダーシップがうまく機能した例です。中央の企画室に情報を集約し、論理的な思考体系で戦略を練り、トップダウンで投資を行う。もの作りに依拠したホンダやソニーでは、出てこない発想だと思います。

野村 教育、特にエリート教育がしっかりしているんですね。韓国からの留学生は本当によく勉強します。

伊藤 ただ、エリート志向が行き過ぎた弊害もありますよ。ソウルへの極端な一極集中で、地方や農村



が疲弊^{ひへい}している。もともと流動性が高いから、地域振興という発想がありません。私は特に農村はずっと追ってきましたが、セマウル運動による近代化で共同体が弱体化したこともあって、変貌著しい。国家政策的にも、農作物は海外に頼らばいいという方向にある。産業構造も空洞化が進んでいますね。工場現場では、外国人労働者を相当数受け入れています。

野村 ジャーナリストとしては、理想の追求という点でハンギョレ新聞の成功を評価したい。韓国はかつてベトナム戦争に参戦した折、無差別機銃掃射や住民虐殺、女性への強姦・殺害といった事件を起こしています。置き去りにした韓越混血児、ライタイハン^{ライタイハン}の問題もある。日本の戦争責任を追及してきた韓国としては、大変に苦い過去なのですが、ハンギョレは臆することなく追及している。国民がそれを評価していることも心強いことです。

伊藤 正義感は日本より健全だといっている。成熟した国家として、国際社会で認知されるには、欠かさない美質です。拝金主義が席捲^{せきけん}するアジアにあって、その精神性を大いに発揮してほしいと思います。

野村 ありがとうございます。